



やあ!

TIA news

やあ!特集

とちぎ留学生奨学金奨学生の活動

とちぎでくらして…
世界をペロリ
心に残る私の写真
国際協力への扉

山根 スリープライさん (タイ)
インド料理「ベジタリアンミール」
バラオ・乙部芽久美さん
「国際協力の現場で活動中です!」

世界のスイーツ

～シンガポール編～



シンガポールと言えば、マーライオンが有名ですが、チリブラウンロールの発祥地もシンガポールなのです。今は、東南アジア近隣諸国でも売られているお土産としても多くの人に親しまれているこのお菓子ですので、皆さんも一度は口にしたいことがあるはず。味は?というと、マレー風の辛さと中華風の海老の味付けになっているスナック菓子で、まさに多民族国家のシンガポール風味といったところでしょうか・・・。

山根 スリープライさん (34歳)



プロフィール

タイ・プレー県出身。日本人のご主人と知り合い結婚。現在、宇都宮市在住。9歳と11歳の2人の男の子のお母さんでもある。

—初めまして。日本語がお上手ですね。

スリープライ 現在は、主人や息子たちとも日本語でほぼ問題なく会話していますが、初めて日本に来た頃は大変苦労しました。タイで日本語は独学で勉強したのですが、本を中心に勉強したので、最初日本に来たときは、言葉が大変不安でした。日本語は本と会話が違ってましたので、最初は戸惑いました。ドラマで学んだり、主人に教わったり、友人との会話で学んでました。その後は子育てを通じて息子たちと一緒に日本語を学んでいったという感じです。

—そうなんですか。お子さんとは日本語しか話されていないんですか？

スリープライ 子どもを育てるときは意識的に、タイ語で育てたんですが、学校へ通うようになってからは、日本語オンリーの生活になったんですよ。そのため、タイ語からは遠ざかってしまったんです。でも私自身の希望としては、子どもたちには私の母国語であるタイ語を理解してほしいと思って学ばせています。今は民間団体の「デックタイ」がTIAで行っている



▲タイへの家族旅行で

タイ語教室に通わせています。

日本に住んでいるからタイ語は必要ないのではないかとされるでしょうが、私の考えから言えば、タイの両親や親戚に会いに行ったとき、タイ語が通じないとかかなり不便なので、コミュニケーションが取れる程度のタイ語の習得が必要だと思ったからです。実際に夏休みには（主人を残して子どもたちと私だけで）タイに里帰りしていますが、その際にもある程度の会話はできてるような感じです。ただ実際、日本にいと、タイ語で質問しても、日本語で返事をすることが多いです。やはり環境のせいかもしれません。

—日本で困ったことはありましたか？

スリープライ 子育てをしていく中で、日本とタイとの習慣の違いというのを改めて認識しました。また隣近所の付き合いも必要ということも感じました。特に、学校に子どもたちが通うようになってからは、それが顕著になりました。日本の学校独特のPTA活動については理解に苦しみましたが、それ自体タイにはないものだったということプラス、そのPTA活動にもし外国人である私が参加しなかったらかなりのヒンシュクを買うのじゃないかなって思って、学校の美化活動とかにも積極的に参加しています。

—それは、立派ですね。たぶん日本の方でも参加されていない人もいますか？ (笑)。

今後の希望を教えてください。

スリープライ そうですね。日本での生活もだいたい慣れてきて、子どももだんだん手がかからなくなってきましたので、少しずつですが、パートタイムの仕事を始めました。また、子どもたちの習い事の送り迎えやショッピングセンターが郊外に進出し、車の運転ができないと不便になったので、ぜひ運転免許を取得したいですね。きっと行動範囲も広がるかなと思います。



▲タイへ息子さんを連れて里帰りのときに

ようこそとちぎへ Welcome to Tochigi

栃木県南米移住者子弟短期研修生来県

栃木県から南米に移住した日本の子女を栃木県に招待し、祖先の育った日本の文化や習慣に触れてもらうプログラムが平成21年1月19日（月）から2月1日（日）の16日間実施された。今回は、団長の滝口セリア江美牛沢さんほか3名の高校生がブラジル・サンパウロの在伯栃



▲華厳の滝をバックに記念撮影

木県人会から派遣され、来日した。

県内では、世界遺産に指定された日光東照宮や華厳の滝など日光視察のほか、大谷資料館やろまんちっく村など宇都宮市内視察をし、県外では、東京・横浜を訪れ、海外移住資料館、東京タワー、

浅草などを見学し、その後は県立宇都宮清陵高校で高校生宅にホームステイしながら、体験通学し、実際の日本の高校の授業にも参加し、高校生との交流も深めた。



また、来日前から楽しみにしていた1泊2日スキー研修では、9月から来県し研修中の栃木県海外技術研修員と一緒に、初めて見る雪に感動したり、はしゃぎまわったりしていた。最初は、慣れないスキー板をはいて、転んだりしていたが、翌日には滑れるようになっていた。帰ってきた夜から行われた親族の訪問を兼ねたホームステイでは、なかなか会うことのできない親戚と普段できない交流をし、祖父母の思い出話に花が咲いた。また、帰国前日に催された送別会では、ホストファミリーとなった親族をはじめ、体験通学の際のホストでもある高校生らも出席し、大いに盛り上がり、別れを惜しむ様子も見られた。

「パパは牛乳屋?!ではじまった国際理解～JICA教師海外研修2008参加者による授業実践報告～」&「アフリカの問題をやさしく伝える方法」

財団法人栃木県国際交流協会（TIA）とJICA地球ひろばの主催による、国際理解教育実践セミナー第2回が平成21年2月21日（土）、とちぎ国際交流センター多目的ホールで行われました。参加者は教員、国際交流団体関係者などで、午前と午後の2部で行い、合計41名でした。

講師は、青年海外協力隊地質調査隊員としてアフリカ・マラウイ共和国にて2年4か月活動し、その後JICAの国内業務を経て、現在国際理解教育ファシリテーターとして活躍している津田かおりさんです。

午前の部は、「パパは牛乳屋?!ではじまった国際理解～JICA教師海外研修2008参加者による授業実践報告～」です。

研修で訪問したパプアニューギニアの概要に続いて、研修を通して学んだことをどのように小中高で実践したのかを報告しました。各報告の後、講師がそれぞれの実践ポイント～現地語を使うメリット、現地のものを使って用途を考えさせる手法、海外を知



▲小学校の授業で実践した内容を報告

ることも大切だがそこから自分の生活を振り返ることの大切さ～などを紹介しました。

また会場からたくさんの質問も出ました。



▲「部屋の四隅」で参加者の緊張がほぐれる

午後の部は、「アフリカの問題をやさしく伝える方法」です。まず「部屋の四隅」で参加者の緊張をほぐしてから、最初のアクティビティ「アフリカクイズ」を行いました。アフリカ全般に関する10個の3択問題です。次に、アフリカ（マラウイ）の抱えている問題「医療・教育・エイズ・食糧問題」について考えました。4つのテーマに分かれて問題解決のためにはどうしたらいいか話し合った後、全員で意見を共有しました。最後のアクティビティは、「マラウイすごろく～学校への道のり」です。これは講師の津田さんオリジナルのすごろくで、各マスにマラウイで実際に起っている内容が書かれてあり、生活の疑似体験ができます。参加者はサイコロを振って駒を進めるたびに一喜一憂していました。

ふりかえりではゴールするまでにどんな問題があったかやどんなうれしかったかやあったかをグループで話しあいました。



▲マラウイすごろくを楽しむ参加者たち

ペロリ 世界を

このコーナーでは世界のおいしい食べ物をレシピ付きで紹介しします。

インド料理 「ベジタリアンミール」

材料(2人分):

小麦粉	100g
じゃがいも(中)	4個
玉ねぎ	1/2個
サラダ油	大さじ2杯
カレーパウダー	大さじ1杯
レッドオニオン	少々
塩・胡椒・唐辛子	少々
コリアンダー	適宜
レモン	1/2個
にんにく	1かけ
トマト(中)	1/2個
にんじん(中)	1/2個



今回、料理を作ってくれたのは、インド出身のモナリザ・ウエブさん。インド北部でよく食べられている簡単にできるベジタリアンミールを紹介してくれます。



▲ベジタリアンミール（フライドポテト、ロティ&サラダのコンビネーション。カレーの付け合せとしても可。）



①フライパンに油を入れて、熱し、スライスした玉ねぎをきつね色になるまで炒める。1cm角くらいの細切りにした皮付きのじゃがいもを加え、塩胡椒する。ふたをして、火が通るまで蒸らす。火が通ったらカレーパウダーを加え、均一になじませ、じゃがいもがやわらかくなるまで弱火で煮る。



②ボールに小麦粉を入れ水を少しずつ足しながら、一塊になるまでこねる。程よくまとまったら、6個に均等にわけ丸めておく。一個ずつ、丸く薄くなるまですりこぎ等で伸ばす。



③フライパンで油をひかずに1枚ずつ焼く。表面が白っぽくなったり返し、直火でぶつと焦れるまで焼き目をつける。



④にんにくを包丁の平でつぶし、唐辛子と共にみじんきりする。トマト、にんじん、コリアンダーも細かく切り、最後にレモンを絞る。塩胡椒をして味を調えて、サラダの完成。①、③と共にさらに盛り付けて完成。

特

集

とちぎ留学生奨学金奨学生の活動ルポ

財団法人栃木県国際交流協会が栃木県の補助で行う「とちぎ留学生奨学金」と企業等からの寄付で行う「とちぎ留学生民間奨学金」という2つがありますが、総称して「とちぎ留学生奨学金奨学生」と呼んでいます。

今回のやぁ！特集では、とちぎ留学生奨学金奨学生の2名の留学生の寄稿された活動報告に基づいて、留学生活、またボランティア活動等をご紹介します。



コ ショウナン
胡 勝男 さん

(作新学院大学経営学部経営
学科3年・23歳・中国出身)

日本語習得の難しさ

私は、2006年に作新学院大学に入学しました。現在は経営学部経営学科で勉学に励んでいます。

日本語が理解できないまま、いきなり日本に留学に来たので、最初は日本語で苦労しました。それだけに失敗もたくさん経験しました。

人とのコミュニケーションの難しさ、アルバイト先での日本語の会話の中での失敗も経験しました。特にアルバイトは接客業でしたので、自分の日本語能力が低いため、お客様の言っていることが聞き取れず苦情も相次ぎました。

一日パン三個の生活も経験しましたが、私は一生懸命日本語の勉学に励みました。学校の先生方の指導もあり、努力を重ね続けた結果、少しずつですが、日本語ができるようになってきました。

今年は幸運にも平成20年度の「とちぎ留学生奨学金奨学生」となり、今までアルバイトで勉学の時間を削っていた分を少し勉学に回せるようになり、少しでも精神的にも余裕ができてきました。



▲留学生活を送る胡さん

わたしのボランティア活動

せっかくの留学ですので、勉強はもちろん、学校のイベントや行事にも積極的に参加しました。

11月には華々しい大学祭、1月には餅つきを体験するなど、バラエティに富んだ留学生活を送ることができました。

また、私も自主的にボランティア活動を行ってきました。私にはどんなボランティア活動ができるのかなという観点から考え、社会に少しでも役に立つ活動をしたと思っていた私は中国人であるということから中国語を教えることを考えました。勉学に支障がないように中国語教室を中国語に興味のある人達のために、ボランティアとして、主に学校の休日を利用して教室をお借りして行っていました。少しでも役に立てたのかなと思うとうれしくなります。

今年の桜が咲くと私は4年生になります。ゼミにも参加しなければならないので、勉学に重点を置くようになってしまおうと思いますが、引き続き微力ながら頑張っていきたいと思います。

現在、企業統治についての研究を行っています。企業統治のメリット、デメリットについてゼミでさらに深く研究する予定です。今後はさらに大学院の進学を目指しています。より多くの知識を習得し、今しかできない留学のチャンスが無駄にしないようがんばっていくつもりです。



▲作新学院大学大学祭に屋台を出す胡さん(右)と友人



ハム チ ス
咸 知秀 さん

(文星芸術大学大学院博士前期課程2年芸術研究科油画専攻 31歳・韓国出身)

日本の友人を通じての体験

韓国で大学、大学院を卒業してから、宇都宮にある文星芸術大学大学院に入学しました。それと同時に様々な経験もしました。

最初、油画科の中には韓国からの留学生もいなく、私一人だったので、デザイン科に留学しているもう一人の韓国人留学生といつも一緒に行動をしていました。

自分の日本語の自信のなさから、日本人と話すのはとても緊張していました。また、日本人と話しているときには日本人の話が速かったりして、うまく聞き取れないこともあって、コミュニケーションの難しさを感じていました。そのため、学校に行っても、一人で絵を描いていることが多くて、これから先、うまくやっていけるか不安でした。

そんなときに、宇都宮にあるギャラリーで7人展をやるということで誘ってくれた学生がいました。



最初は馴染めませんでしたが、那須のカフェギャラリーでの2人展を行ったりして、だんだん接するうちに彼女とも打ち

解けるようになって、日本語ができなくて困っているときも言いたいことを読み取って理解してくれたのです。一番うれしかったのは留学生としてではなく絵を描く仲間として接してくれたことです。それからは、学校へ行くことも楽しくなり私にとって良い変化が生まれました。



交流展・制作展を行った2年目

今年度は、夏に仙台の東北生活文化大学と交流展を行いました。

また、日本の公募展に初めて出品し、入選しました。これは私にとって大変うれしい出来事でした。安心して絵が描ける環境になってきたと実感しています。また、今年は終了制作展を上野の東京都美術館と文星大学の学校内で行うことになっています。また、先日も個展を開きました。その個展については、下のほうに展示作品の一部を載せたので、ご覧ください。

今まで私は、韓国でも個展をしたりしてきました。日本に来てからさらに個展などの経験も増えました。日本での留学は2年という短い期間でしたが韓国へ帰って日本で得たものを生かして、大学で教える予定です。今度は韓国で自分のような悩みを持っている留学生を自分がみてあげる番です。



HEY (Ham Eiko Yoshiko) 3人展を開催

1月20日(火)～2月1日(日)まで、宇都宮市内にあるギャラリーで文星芸術大学大学院博士前期課程修了間際の3人がそれぞれ個展を行いました。今回経験談を述べてくれた咸知秀さんもその1人です。個展の模様と作品をいくつか紹介します。



▲ギャラリーの様子



▲咸さんの作品



▲咸さんの自信作



▲パラオで元留学生と再会した乙部さん（右）

自然分娩を教えた蜘蛛の化身

むかしむかしパラオ人は、竹のナイフでお腹を切って出産させていたため多くの妊婦が命を落としていた。あるとき、人間の青年に姿を変えた蜘蛛が彼の奥さんの出産時に村の人々を家から追い出しお腹を切らせなかったため、パラオの人たちは、自然分娩を知ることができたという神話があります。

※ お母さん（ディルジュンさん）の全身が黄色いのはターメリック（ウコン）の入ったオイルを塗っているため。



初めての出産を祝う儀式（ガス）

人口2万人のうち200人もの人たちが参列するこのお祝い。お母さんが元気な姿を見せるとみんな歌ったり踊ったりして喜びを表します（手にしているお金はご祝儀）。大家族なので、親戚みんなで食事や飲み物を用意したり、それ以外の人のご祝儀ははずんでサポートします。

このコーナーで紹介する写真とエピソードを募集しています。
詳しくは、協会までお問合せください。（☎028-621-0777）

Topics

トピックス

「多文化共生の地域づくり講演会」開催

平成21年2月1日（日）財団法人栃木県国際交流協会と宇都宮市市民生活部国際交流プラザは、多文化共生の地域づくりを今後広めていくステップの第1段階として、県内の外国人集住地域の1つである宇都宮市の清原地区で講演会を開催した。講師は静岡県磐田市自治会連合会会長の杉田友司氏。当日は市町、市町国際交流協会関係者のほか、100名を超える地元の自治会関係者等が参加した。

今回のテーマは「地域社会における多文化共生への取り組み」～外国人との顔の見える関係づくり～ということで、全国からも注目されている磐田市の実例をもとに、問題点や方法などを紹介する内容の講演だった。

磐田市は宇都宮市と同様



▲熱心に講演を聴く参加者たち



▲具体例を挙げながら講演する杉田氏

講演の後は、事例を紹介するDVDが放映され、実際の取り組みについて、目でも理解できるプログラムだった。放映後は質疑応答が行われ、参加者は実際に抱えている問題を講師へ熱心に質問していた。講演会が終了した後もそれは続き、杉田氏は個々の疑問を持つ人や、講師の配付した資料に関する事など、進んだ取り組みを参考にしたい人達の質問攻めに合っていた。

講演会では、ほかにも在伯栃木県人会創立50周年のブラジル移民写真展も開催した。

ブラジルの現在の様子や日本移民100周年を祝うお祭り、また、県人会50周年を記念する写真が展示され、来場者も関心を寄せていた。

今回は初めての試みではあったが、好評な講演会となったようだった。

ブラジルから来た住民が多いということで、参加者が関心を持ち、会場ではあちらこちらでしきりにうなづく姿が見られた。

特に今回講演会を行った宇都宮市の清原地区では外国人でもブラジル人の割合が非常に高く、ブラジル出身の方も参加され、ポルトガル語の通訳もお願いした。



▲会場で行われた写真展

第25回わいわい地球っ子クラブ ～わいわいクリスマス～

2008年12月6日(土)に第25回「わいわい地球っ子クラブ」を行った。今回参加したのは、小学3年～6年生までのわいわいの会員24名。今回はクリスマス会ということで、栃木県海外技術研修員4名(中国、ラオス、ブラジル)が、それぞれの国の紹介やゲーム、遊びを披露した。

まず、パワーポイントでそれぞれの国の紹介した後、中国やラオスの研修員が、国のお金を見せてくれた。子どもたちは、興味を持って見ていた。その後、ラオスの研修員がラオスの踊りを紹介してみんなで楽しんだ。また、ブラジル研修員はブラジルの羽根つき「ベテカ」を披露してくれた。中国の研修員は中国で子どもたちが遊ぶ「たかひよこ」というゲームと中国の「ゴムとび」を紹介してくれた。体を動かす遊びが多かったため、子どもたちもかなり楽しめたようだった。最後にきれいなクリスマスの飾りを作った。時間があまりなかったため、デコレーションが終わらない子もいたのだが、うちで完成させる宿題にした。



Club lycée 「クラブリセ」 第44回ミーティング「なるほど世界はおもしろい! with AFS留学生」

2008年12月13日(土) 13:30～15:30、とちぎ国際交流センターでクラブ・リセ第44回ミーティングを実施した(参加者27名)。今回のゲストは県内の高校で学んでいるAFS留学生で、コスタリカのアナ(宇都宮北高校)、アメリカのジェレミー(宇都宮高校)、ドイツのシーナ(宇都宮女子高校)、ベトナムのクォック(小山城南高校)の4名。まず最初に各自が母国語で自己紹介し、国の位置を確認し国旗の意味を説明した。次に、留学生と参加者全員で、コスタリカ、アメリカ、ドイツ、ベトナム、日本に対して持っているイメージを各自簡単な言葉で書いた。書き出された自分の国の様々なイメージに対して、留学生がそれぞれコメントした。その後、留学生への質問を行い、答えてもらった。例をあげると、「あなたの国の良い点は何ですか? また、自国の問題点は何ですか?」「日本の文化で特に驚いたことは何ですか?」「日本語をどのように学びましたか?」など。日本の高校と違う点をあげると各国とも中学と高校が一緒になっていて、学年が上がるときに進級試験があったりすることだった。これには多くの日本の高校生は驚いたようだった。最後に参加者から質問が飛び出し、4か国の今まで知らなかった多くのことを知ることができたようだった。



国際協力への扉 世界の4国

「国際協力の現場で活動中です!」

JICA青年海外協力隊6名の皆さんが、12月18日(木)に栃木県国際交流協会(TIA)や栃木県庁へ表敬訪問を行いました。1月上旬に各派遣国に出発したみなさん、派遣国の人々と国際協力の現場で活動中です!

●藤澤由佳さん(ドミニカ共和国/青少年活動) 宇都宮市出身

ドミニカ共和国に青少年活動隊員として派遣されます。現地の貧困地区の子どもたちと芸術レクリエーションを楽しみたいと思っています。また現地の人達から多くの事を教わりたいと思っています。そして日本に戻ってきたら、多くの人たちに私の活動内容のお話ができればと思っています。

●山口寛さん(インド/日本語教師) 宇都宮市出身

インドのデリー大学で日本語を教えます。現地の人々に日本のことをいろいろ知ってもらって、友達もたくさん作ってこようと思います。

●山崎和幸さん(ケニア/コンピュータ技術) 宇都宮市出身

ケニアのニエリという町にある学校でコンピューターの先生と活動していきます。技術ばかりでなく、愛もたくさん伝えて愛をたくさんもらって、LOVE&PEACEを広げつつ、ギョウザ&ライスも広げてきます。

●木村哲子さん(パナマ/司書・学芸員) 鹿沼市出身

首都・パナマシティにある公衆衛生ゴルガス記念研究所の情報管理室へ配属となります。研究所の図書館で、司書・学芸員として活動する予定です。医学系の専門図書館なので、学ぶべきことが、たくさんありそうです。任国の方々と良い関係を作りたいと思います。

●田中紫さん(ベナン/エイズ対策) 那須塩原市出身

西アフリカのベナンの首都、ポルトノボにある保健センターにて、妊産婦を対象とした感染症、特にエイズ、性感染症などの啓発活動を行う予定です。現地の人々のニーズと課題、そしてその解決策を現地の人々と共に考え、共に働きたいと思っています。

●柳沼和宏さん(モロッコ/土木) 那須塩原市出身

北アフリカのモロッコ王国に土木隊員として派遣されます。南部のタハナウトという町の市役所にて、主に下水道の発注監理業務を行う予定です。

地域の発展のために少しでも貢献できればと思っています。



▲いってきま〜す!

「世界も、自分も、変えるシゴト。」 JICAボランティア募集(4/1～5/18) ★県内の春募集説明会★

	青年海外協力隊 (20～39歳)	シニア 海外ボランティア (40～69歳)
4/11 小山市立生涯学習センター	14:00～16:00	10:30～12:30
4/25 とちぎ国際交流センター	14:00～16:00	10:30～12:30

TIA内JICA栃木デスク 知久志穂子 ☎028-621-0777

TIAの国際理解クラブ 会員大募集!!

高校生のための

● Club lycée クラブ・リセ

国際的視野を身につけよう!!

活動内容 参加型セミナー、
外国人との交流など

年会費 無料

日、英、中、スペイン、ポルトガル

TIA携帯サービス登録会員大募集

財団法人栃木県国際交流協会(TIA)は携帯電話による多言語情報提供「TIA携帯情報サービス」を実施しています。「TIA携帯情報サービス」のメール会員には、様々な生活情報やイベント情報、また防災に関する情報などをメールでお届けします。

メール会員へご登録希望の方は、下記アドレスにアクセスしてください。
<http://tia21.or.jp/mobile/>

賛助会員募集 !!

(栃木県国際交流協会(TIA))では、賛助会員を募集しています。皆さまからの賛助会費は、TIAの様々な事業に使わせていただき、地域の国際化に役立っています。

会員の特典: ●TIA主催・共催等の各種イベントやセミナー等の情報提供。●TIAニュース「やあ!」を年4回送付。●会員証の提示により指定店の旅行企画商品および海外旅行用品の割引●ビデオ録画方式変換(海外⇄日本)の無料サービス●団体賛助会員には、とちぎ国際交流センター利用の場合、予約は2か月前から先行受付(通常は1か月前より受付)。

年会費:個人 3,000円
団体10,000円
法人30,000円

外国人のための専門相談のご案内

TIAでは、総合相談のほかに栃木県精神保健福祉センター、栃木県弁護士会、栃木県行政書士会の協力を得て、下記の専門相談を行っています。相談では医師、弁護士、行政書士の専門家が対応します。

外国人の方や外国人とのかかわりでお悩みの方は、お気軽にご相談ください。相談は無料ですが、予約が必要です。

●精神保健相談

毎月第1・3火曜日 15:00~16:00

●法律相談

毎月第1火曜日 10:00~12:00
(祝日の場合は第3火曜日)

●入国・在留・国籍手続き相談

毎月第2水曜日 10:00~12:00
(祝日の場合は第4水曜日)

※場所:とちぎ国際交流センター

(精神保健相談は栃木県精神保健福祉センター)

※言語:日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語(ほかの言語による相談も可)

お問合せ(相談専用電話)

☎028-627-3399

(火曜日~土曜日 9:00~16:00)

総合相談:火曜日~土曜日 9:00~16:00

※TIA相談員が対応します。(予約不要)

財団法人栃木県国際交流協会は、特定公益増進法人(寄付金の損金算入等の課税特別措置)の認定を受けています。当協会の事業にご賛同くださる各企業、団体等からのご出捐をお願いいたします。

栃木県国際交流協会 事業案内 Tochigi International Association(TIA)

~とちぎ国際交流センターの交流ラウンジ・図書閲覧室は
どなたでも気軽にご利用できます~

■相談事業

在住外国人の生活にかかわる相談や県民の国際交流・国際協力にかかわる相談に、専門の相談員が対応

■機関紙の発行・情報提供

TIAニュース「やあ!」や在県外国人向け外国語情報紙の発行
とちぎ国際交流センター内には情報交換のためのメッセージボードの設置

■各種イベント・講演会

国際交流促進や国際協力意識高揚を目的とした各種イベントや講演会の実施

■TIA協力者バンク

ホストファミリーバンク、インストラクターバンク、トランスレーターバンクの運営

■とちぎコミュニケーションネットワーク(TCN)

在県外国人のネットワーク。イベント等の情報提供、国際理解講座等への協力

*この他さまざまな事業を行っておりますので、お気軽にお問合せください。
*会議室等の施設利用についてはご相談ください。(国際交流、国際協力などの会議等)



You can select from some Media.

株式会社 松井ピ・テ・オ・印刷

本社/〒321-0904
栃木県宇都宮市陽東五丁目9番21号
URL <http://www.pto.co.jp/pto/>
E-mail s@pto.co.jp
tel. 028(662)2511(代)
fax. 028(662)4278



TIAご案内図



編集・発行 財団法人栃木県国際交流協会
住 所 〒320-0033 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内
TEL 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用)
FAX 028-621-0951
業 務 時 間 8:30~17:30
休 館 日 日曜・月曜・祝祭日及び12月29日から1月3日